

## 執筆要領

### 原稿について

本誌では、投稿原稿を受け付けています。以下の執筆要領にしたがって原稿を編集局までお送り下さい。原稿の採用については、編集委員会が中心になって査読を行います。必要に応じて関連分野の専門家に依頼し決定します。

原稿は、ワードプロセッサまたはコンピュータソフトを用いて作成する。プリントアウトした原稿1部（図表を含む）とフロッピーディスクを編集局へ送付する。フロッピーディスクのフォーマット、使用したマイコンの機種、ワープロソフトは一般に使われているものなら何でも結構ですが、使用したマイコンの機種、ワープロソフト、氏名及びタイトル名をフロッピーディスクの上に明記して下さい。なお、念のため、テキスト形式で保存したファイルも添付するようにして下さい。

総説と技術ノートの著作には、別刷り50部を無料でさしあげます。50部以上希望の場合は有料となりますので、編集局までその旨連絡して下さい。また、非会員で総説または技術ノートを執筆いただいた場合、会費免除で1年間本学会会員になれます。

### 1. 総説と技術ノート

- 1) 原稿の長さは、図、表、文献を含め刷り上がりで4~5ページ程度（1頁は約2100字と考えて下さい：横1行23文字で1頁46×2=92行）とする。
- 2) 第1頁に表題、著者名、所属及びその所在地、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス及び脚注（必要がある場合）を記す。
- 3) 第2頁に400字程度のアブストラクトを記入する。
- 4) 本文に節を設ける場合、1.、2.、3.、・・・とする。
- 5) 書体の指定は、プリントアウトした原稿に朱で行い、斜体（イタリック体）は1本下線（\_\_\_\_\_）、太文字（ゴシック体）波下線（~~~~~）とする。
- 6) 参考文献の数は特に制限しないが、50編以内が望ましい。参考文献は、アルファベット順に通し番号を付けて文末にまとめて掲げる。本文中の引用箇所には、通し番号を右肩に付けて示す。  
（例）Aschoffによる<sup>1-4)</sup>、・・・である。<sup>5, 8, 9)</sup>。
- 7) 文末の参考文献の記載は、次のようにする。  
[雑誌]通し番号) 著作名：誌名、巻数、ページ（発行年）  
[書籍]通し番号) 著作名：書名、ページ、発行所（発行年）  
（例）1) Aschoff J, Gerecke U, wever R: Jpn J Physiol. 17:450-457 (1967)  
2) Aschoff J: Circadian Clocks, pp 95-111, North-Holl and, Amsterdam (1965)
- 8) 表は原則として3~5程度とするが、必要に応じて増やすことができる。簡潔な標題と必要な説明をつけて、本文とは別の用紙に作成する。
- 9) 図は原則として3~5程度とするが、必要に応じて増やすことができる。図には簡単な標題を付ける。図の標題と説明は別紙にまとめる。
- 10) 図及び表の表示は、図1、図2、・・・、表1、表2、・・・の通し番号で行う。これらを挿入する箇所を、プリントアウトした本文の原稿欄外にエンピツ書きで指示する。
- 11) 図及び表を文献から引用した場合、引用を明記するとともに、引用の許可が必要な場合には、著者の責任で許可をとっておく。

### 2. 研究グループ

研究室や研究グループの紹介記事。刷り上がりで1~2ページ程度。執筆者を含む顔写真、または研究現場のスナップ写真を少なくとも1枚は添付する。写真には標題と説明を付ける。

### 3. 海外レポート

留学などで滞在した研究室、訪問した研究施設、あるいは海外調査や見聞の紹介記事。写真があれば添付する。刷り上がりで2~4ページ程度とする。

### 4. 関連集会報告

国内外の関連集会の紹介記事。写真があれば添付する。刷り上がりで2~4ページ程度。

## 編集後記

- 本学会では年2回会誌を発行していますが、今月号で通算9巻、合計17冊の会誌を発行することになりました。会誌の内容も徐々にではありますが充実し、投稿論文など増えてきました。そこで、さらに学術雑誌として充実するために、本号から従来のB5版をA4版に拡大し、会誌名称についても「時間生物学」に変更することにしました（アンケートの結果をご覧ください）。本誌は査読制度を設けた学術雑誌です。投稿を希望される方は、執筆要項にしたがって原稿を編集局までお送り下さい。特に、若手研究者の総説などを期待しています。
- 第1回時間生物学世界大会（WCC2003）が9月9日～12日、札幌で開催されます。各国の時間生物学関連学会を結集して設立した時間生物学会世界連合の記念すべき第1回の大会です。本年度の時間生物学会学術大会も兼ねていますので、是非御参加下さい。
- 時間生物学領域で顕著な業績をあげ、今後の活躍が期待される若手研究者を表彰するために「学術奨励賞」を設けました。他薦、自薦を問いませんのでどしどし応募下さい。詳しくは、本誌をご覧ください。
- 昨年の大会のワークショップ「時間治療の最前線」の内容を論文にまとめていただきました。時間生物学の基礎研究の成果を治療に生かす研究が進んでいます。御一読下さい。
- The physiological Clock（生理時計、古谷雅樹・古谷妙子訳、東大出版）の著者であるE.ビュニングは「生物時計の父」と呼ばれています。ビュニングと古くから親交のあった田澤先生に、その業績について紹介し、いかにして生物時計の概念が形成されたかを解説していただきました。大作ですので2回に分けて掲載します。次回も御期待下さい。（S.E）

時間生物学 Vol. 9, No. 1 (2003)

平成15年5月発行

発行：日本時間生物学会 (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsc/index.html>)

（事務局）〒464-8602 名古屋市千種区不老町

名古屋大学大学院理学研究科 生命理学専攻内

TEL：052-789-2498 FAX：052-789-2963

（編集局）〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学大学院生命農学研究科 応用分子生命科学専攻内

TEL&FAX：052-789-4066

（印刷所）名古屋大学消費生活協同組合 印刷・情報サービス部